

每月一回(一日)發行(定價金貳拾錢)  
明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可  
明治四十二年十一月一日發行

本號に限り 特價金貳拾五錢 郵税金壹錢五厘

第九卷 第一號  
通卷 第八十二號

# 文部省美術展覽會號

## 發展の辭

今や美術は社會に於ける最も切なる要求の一となり、繪畫、彫塑の鑑賞より、居室、邸宅、服飾、雜具の嗜好に至るまで、一として美術的要求の反影を示さざるはなきなり。是等の要求は古昔以來素より之なかりしにあらずとも、其要求の切なる程度は、日進の文明と共に、日一日其度を高めつゝあるは争ふべからず。最も手近なる例を擧ぐれば、近來展覽會季節に於て、作物の品評は、社交上殆ど缺くべからざる話柄の一となりたり、是れ美術の趣味と知識とは、現代人士の最も要求するものとなりたるを證するものにあらずや、されば美術趣味の向上と、知識の普及とを謀り併せて美術界の忠實なる報導者を以て任ずる我美術新報が、茲に一大發展を企つるは、洵に時勢の要求に應ずるものこと信ず。創刊以來既に八星霜、聊か斯界の爲めに致したりき。今復た將に一段の奮勵を加へ、努力以て其任務を遂行せんことを期す、希くは大方諸賢、倍舊の眷顧を垂れられんことを。之を發展の辭とす。

明治四十二年十一月一日

謹告

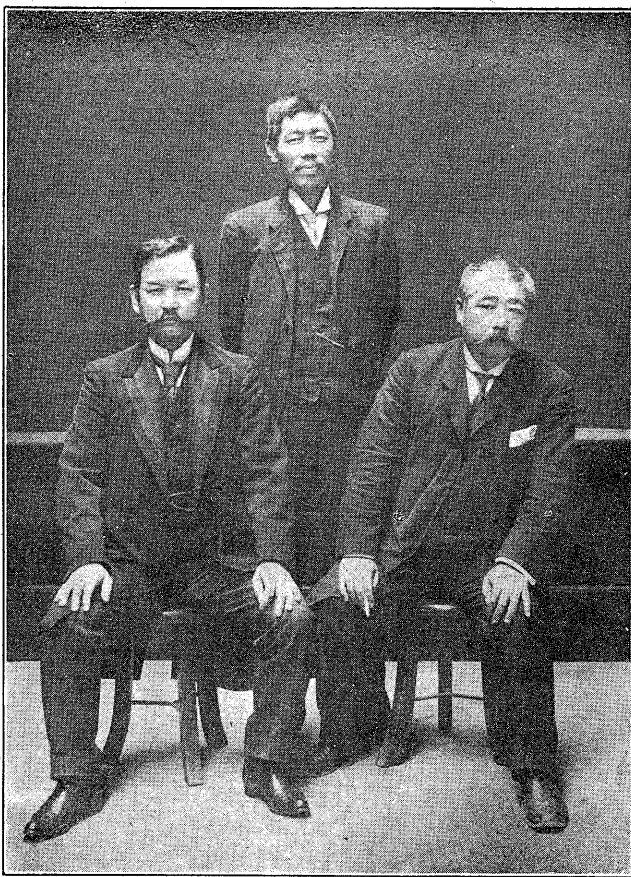
編輯局

今般本誌主幹として、犀水坂井義三郎氏を聘し、更に斯道諸大家の贊助を仰ぐこととす。既に快諾を興へられたる向少なからざるも、紙面の都合により、次號に於て其芳名を發表すべし、若し夫れ紙面改良の事實に至りては、請ふ之を次號の實際に見よ。

## 第三回美術展覽會開會所感

願ふ二年以前、前の文相牧野男が久しく歐洲に駐在して、親しく文物の旺盛なる所以を觀察し、歸來早々、九鬼男が切なる勸めあるに應じ、始めて文部省美術展覽會を創設するや、恰も三十七八年役戰勝の結果、興國の氣運益々熟し、國民の文明、更に一段の進歩を爲さんとし、我美術も亦將に隆興し、漸く國民的特色を發揚し來らんとするの時に於て、此企が如何に時宜に適したりしかば、何人も之を疑はじ。假令其施設上の細項に就て、多少の缺陷ありしとすも、大體に於て美術獎勵の効果は確に之を認めざるを得ざらん。

左岡田委員長、右福原局長、中央正木主事



公設美術展覽會の第一日  
ジュール、ド、ヴェルニサージュ

歐洲特に佛蘭西では、サロンの開會最初の日を、ジュール、ド、ヴェルニサージュと云ひ、英吉利では、ヴァニシング、デーと云つて、美術家に取つては最も肝心な日である。初め此日は畫家が愈自分の出品製作にワニス塗つて、最後の仕上をする日であつたが、後には此習慣が止まつて、一般公衆の縦覽を謝絶して、特に朝野の名士貴女を招待することとなつた。されば此日に招待を受けると云ふことは大なる名譽となつて居て、謂はば紳士淑女の資格のあることを公認せられた様な譯である。

昨年内閣の更迭と共に、小松原氏文政の局に當り、美術展覽會に就て、幾分改革し、其第二回を開くや、日本畫の部に於て、頗る第一回の方針を異にしたなり。由來美術協會派と玉成會派との反目は、展覽會創設の當時より甚だ劇烈の狀ありしが、同會に於ける兩派勢力の消長が、第一、第二兩回に於て全然其位置を轉倒したるは感服し難き所なりしも、今年は兩派の折合、稍和らぎ得たるが如きは佳し。之を美術家の側より見るに、各自所屬の團體以外、全國の同業者が、一堂の下に相會して其技を闘はすべき唯一の檯舞臺なれば、出品製作上に於ける、奮勵の意氣込、自ら熾んなるべき理にして、且つや互に異派の製作と自作とを比較するに最も便利なれば、孰れにしても技術の進歩を促すべきは當然の事なりとす。固より實際に於ては、年々進歩の顯著なるを必ずすべからずと雖も、そは展覽會の存否以外の理由に基くものにして、吾人は公設展覽會を以て、美術界に於ける有要有益なる一機關なりとして、毫も其効果を疑はざるなり。若し夫れ多少の弊風を伴ひ來るが如きは免れざる所なるべしと雖も、是は相戒めて避くべく、唯最愛ふべきは早く倦怠せざらんことなり。茲に第三回の開會に際し、特に創設者の功德を憶ふ。

から、招待に預つたものは、其光榮を空うせず、競ふて參觀するの習慣がある。我文部省美術展覽會も第一回開會の時、此ゆかしき嘉例に倣ふて、之を實行して、非常な好成绩を擧げたが、何故か、第二回の昨年は之を廢した。然るに審査官等は之が復興を希望して、當局に勸めて、今年は之を再興することになつた。今年十月十五日を以て、其第一日と定められ、午前九時芽出度開場せられ、淑女紳士參觀するもの夥しかつたが、記者の知り得たる主要なる人名は左の如くである。

山縣元帥、西園寺侯、花房義實子、安田善次郎氏、添田壽一氏、柳原伯、佛國大使ジュエラド氏及北堂、角田竹冷氏、河瀬秀治氏、手島精一氏、藤澤理學博士、菊池大麓男、松岡前農相、牧野前文相、峰須賀侯、徳川伯、青山醫學博士、石黒忠忠男等。